

高大連携講座で開発した商品の売上金を寄付



経営学の理論と実践

高大連携講座では経営学の基本を学ぶとともに、地元の特産品を使った商品を開発しています。12月の六斎市では、その商品を実践販売し、売上金を「六斎市実行委員会」と「中津川市社会福祉協議会」に寄付しました。



※写真は中津川市商工会議所

代表として寄付金を渡した生徒は「経営について実践的に学ぶ機会をいただいたことに感謝している」「来年度以降も私たちの学習が地域に貢献できたらうれしい」と話していました。

2004年度から続く中京学院大学との高大連携講座で経営学を学んだ生徒は、特産品を生かした商品開発から、六斎市での販売まで経験することができます。また、中国語を学んだ生徒は、馬籠宿での観光案内を中国語で行っています。このような経験を積んだ生徒たちが、将来中津川で活躍する人材になってくれることを願っています。